



学校だより

たかくだより

那須町立高久小学校
令和3年11月1日発行
NO. 10
文責 伊藤いつみ



高久小HP

QRコード

『自律・自立に向け、学ぶ子どもたちの姿』



「当たり前を ちゃんとやる人に」



秋冷の候、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。10月14日から後期がスタートしました。マラソンで言えば折り返し地点で、残りの半年で来年度の準備をすることとなります。始業式には、校長から各学年の児童に向けて半年間で頑張りたいことを伝えました。どれも児童の「自律・自立」に関わることでしたが、特に6年生に話したこと（下記）は、全校生で取り組んで欲しいことです。

6年生は、高久小の「リーダー」としての姿を、これが、「高久小の伝統を引き継ぐ者の姿だ」というところを、しっかりと下級生に見せていって欲しいと思います。

6年生は、今までもリーダーとしての姿をたくさん見せてくれました。全校道徳でみんなの意見をまとめていく姿。掃除の時間に黙々と活動する姿。委員会やふれあい集会、秋のスポーツ祭で、中心となって活動する姿など、6年生の姿は下級生のあこがれでもあります。

「ABCDの原則」というのがありますが、それは、

- A 当たり前のことを
- B ばかにしないで
- C ちゃんとやれる人こそ
- D できる人

というものです。当たり前にたんとやるべきことをやる。責任ある行動をしていくことが、できるリーダーの姿であり、中学校への準備になると思います。ABCDで頑張ってください。



また、前期終業式の下校指導で伝えたことですが、寒くなるにつれて車で登校する児童が多くなってきます。スクールバス利用の学校では、体力の低下が心配され問題となっていますが、スクールバス運用のない学校は、那須町では高久小学校だけです。毎日の徒歩での登下校は、日々の積み重ね、体力の向上や「自律・自立」につながっています。学区外からの児童は難しいとは思いますが、登校班のある児童は、朝だけでも、また通学路の途中からでも可能ならば班で歩いてほしいと考えています。

始業式で後期の抱負を「歩いて登校することをがんばりたいと思います。」と堂々と発表していた1年生があり、きちんと話を聞いて受け止めてくれたことも含め、大変嬉しく思いました。

「地域との連携」



一生懸命に楽しいもほりができました。

【稲刈り10/15】

5月下旬に田植えをした稲がたわわに実り全校生で稲刈りを行いました。地域づくり委員会の皆様の日頃のお世話があつての収穫です。子どもたちも感謝の気持ちで稲刈りをしていました。

先日、精米したお米を2袋学校にいただきました。毎年有り難い限りです。今年も、給食でいただきます。こうした地域の方の御協力があつてこそ、貴重な体験です。感謝いたします。

【さつまいもほり10/5】

1・2年児童が6名の地域協力ボランティアの皆様と一緒に、さつまいも掘りをしました。

今年は夏休み前に雨が少なかったからか、土が硬くて、いもを掘るのに苦労していましたが、大きなさつまいもが収穫できました。

掘ったいもは家に持ち帰ったほか、給食でさつまいもご飯やクリームシチューでいただきます。



稲を束ねるのは、高学年でも大変です。

お知らせ

学校での会議の様子をお知らせします。

第2回PTA理事会 (10/15)

令和6年度に迎える創立150周年記念事業の実行委員を、PTAからどのような形で選出したら良いかを話し合いました。現在のPTA役員の選出の方法は、1年交替で、低学年の時にくじ引きなどで決めている学年が多いようです。PTA活動には、保護者の皆様の関わりが大変重要になってきますが、役員の任期が短いと、現在のように行事が行われていない中での引継や活動への深まりが難しくなっております。さらに、150周年記念事業は、学校だけでなく後援会や学校運営協議会、公民館などの様々な団体に関わってくださいます。その為、中心として活動いただくPTAとしても、数年事業に関わっていただける方を探しております。

現状のPTAの問題を感じ取ってくださっている、現PTA副会長の瀬戸竜介様が、令和4・5年度のPTA会長を、また平成30年度令和元年度にPTA役員を務めてくださっていた相馬裕太様が令和6・7年度のPTA会長を引き受けてくださる意向を示してくださっています。どうか、保護者の皆様には、PTA活動や150周年記念事業への積極的な関わりをお願いいたします。

学校職員には異動があるため、地域そしてPTAの皆様が中心となって、本校の創立150周年記念をお祝いしていただきたいと切に希望いたします。

グーグルフォームで、立候補や他薦の受付をしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



第1回次年度行事調整会議 (10/26)

学校を中介として、学校運営協議会、自治会、公民館、後援会、PTA、育成会などの方々が集まって、第1回行事調整会議を行いました。社会教育主事の大森誠先生にも御参加いただき、なぜ、今こうした会議が必要になるのかや、役員としてのやり甲斐や課題などを話し合いました。

コロナ禍で行事がもてない中、育成会からは、世代交代で行事を行うにも単一団体では限界があることの切実な悩みが聞かれました。自治会長さんからは、行事を無くすのは簡単だが、復活は難しい。活動への参加者が限られている。自治会への加入が減少している。PTAからは、1年交替の役員選出の課題など、役員の皆さんが様々な課題を抱えている現状を交流しました。

次回は、11月11日の和い輪い学習フォーラムで、高久小卒業生的那須中学校の生徒も交えて、皆で協力して取り組めるものはないかなど話し合っていきます。

高久の風

高久には、「もちつき唄」が伝えられていて、本校ではもちつき大会の時に、その唄が披露されてきました。子どもたちは、唄に合わせて杵を付いて楽しくもちつきをしていました。

茅沼にお住まいの相馬カツ様も、毎年学校にいらし

て歌ってくださいました。相馬様は、民謡を歌われていることもあり、高久に嫁いできてから建前などの祝いのもちつきの時に歌ってこられたようです。

私は4年前から本校に勤務させていただいていますが、当時は北校庭の体育館付近でもちつきを行い、男性の方が唄を歌ってくださっていました。高久中学校の解体に伴い、小学校の昇降口が南向きになって、そこでもちつきをするようになってからは、相馬様など4名の女性の方がいらして唄を披露してくださっていました。

もちつき唄の歌詞は、昔からの口伝ででの伝承だと思いますが、「白河・八重桜・会津」といった福島を思わせるものがあり、どのようないきさつでこの地で歌われるようになったのか疑問に思っていました。相馬様のお話によると、もちつき唄の歌詞は、現在歌われているもの以外にもあった

そうです。しかし、高久結社の先達たちが子どもに聞かせても良い文句を取り入れて、いいところを拾って、今歌われている歌詞になったのではないかとのことでした。相馬様は、歌詞のコピーを大切にしておいでで、「盆踊りの唄」も歌っていたとお聞きしました。

育成会の行事として行っていた、学校でのもちつきや納涼祭は、昨年からは新型コロナウイルス感染症予防対応により行っていません。時代も変わり、もちつき唄を歌うことも無くなっているようです。令和6年度に150周年を迎える高久小ですが、地域に残る伝統を継承していくことは大変なことだと強く感じました。

5年生が毎年音楽でお世話になっている、「弓落野州盆踊りお囃子保存会」

でも、後継者育成に苦慮しているというお話を伺っています。継続・継承は課題となっています。

